

# 1 原点

昭和48年4月5日。私が障害児だと初めて知った日である。

当時7歳。その日、足の矯正手術を受けるため障害児専門の病院に入院した。

好奇心旺盛の私は、早速病院内を探検した。重度病棟の大部屋に入った。そこには、たくさんのベッドや車椅子があり、歩けない人、手が動かせない人がいた。その光景は強烈な印象として心に焼き付いている。

車椅子に座っている人を見て、自分以外にも障害のある人がいるのを知った。

障害児と健常児が区別され、私は障害児側にいるのだと心の中で理解した。この時、「この人のためにお役に立ちたい」との思いが生まれ

た。

4歳の時から健常児の養護施設で暮らし、その地域の小学校に1年間通っていた、不自由な足の歩き方をまねされて悲しい思いをした事もあった。いじめにもあった。

病院の中で思った。役に立てる事があるかもしれない。そのためには学ぶのだ。私が生きていくための「居場所」の発見であり、学びの原点となった。

その後の高校受験、大学受験、そして社会人としての生活。当然のごとく幾多の苦難があった。もうこれ以上前に進めないと心が折れそうになった時、その都度、大部屋の光景を思い出し、ピンチを脱してきた。お役に立てる人間になりたい。その

ために貪欲に学ぶのだ。これが私の人生の原動力である。

そんな思いを抱くようになった7歳の時の自分に、日々感謝している。あの日の大部屋の光景を胸に、今日も学び続ける。

